

促成(2~4月収穫)スイカの着果安定技術

農業研究センター 農産園芸研究所 野菜栽培・特産部

研究のねらい

促成スイカ栽培は無加温栽培であり、冬季の日照時間が少ないため、雌花の分化、着生が不安定となりやすく、着果不良や品質低下を生じている。そのため、充実した雌花の着生と品質の安定が求められている。

そこで、2月~4月に収穫する作型を対象に、「朝ひかり」及び「翠章」を用いて、雌花着花と光・温度との関係を明らかにした。

研究の成果

1. 10月下旬頃に定植する作型の場合、35日苗が雌花着生が多く、かつ11~20節に雌花着生が多い苗となるので、35日程度で子づるがほとんど出ていない若苗を定植する。
2. 12月下旬頃に定植する低温期の作型の場合、35日苗が雌花着生が最も多いが、35日苗では若すぎる傾向があり、低温期の育苗であるので、47日程度の育苗期間とした方が良い。
3. 低温期における定植初期の光・温度管理技術としては、高温(平均最高温度37℃)管理が苗の活着促進が図られ、雌花着生が安定し、また、子房径の大きい充実した雌花になる。
4. さらに、定植直後からの植え傷み防止のための遮光処理は長期にならないようにし、なるだけ苗の活着を促し、活着後はできるだけ光量の確保を図り、充実した雌花の着生に努める。

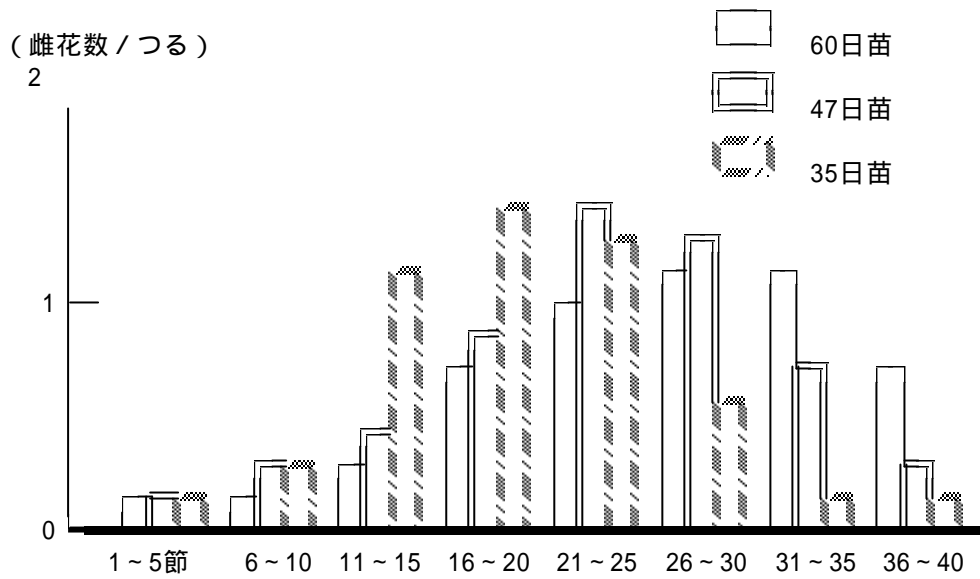


図1 苗質・苗令と雌花着生（品種：朝ひかり）

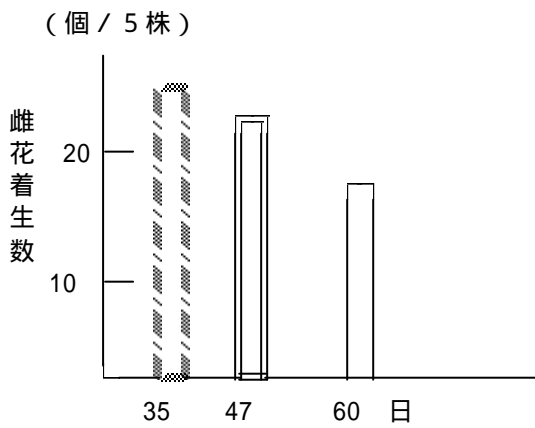


図2 育苗日数が雌花着生に及ぼす影響（40節まで）

表1 雌花の質（開花時）

処 理		調 査 数	開花時の 子房径mm
要 因	水 準		
昼 温	低 温	36	7.8
	高 温	28	8.4
遮光 日数	7日	31	8.0
	14日	33	7.6
ビニール被 覆枚数	2枚	27	8.4
	3枚	37	7.2

ラプシート被覆